

を目的に、小中学校で認知症サポーター養成講座を開催したいとの要望があり、本委員会としても正しい知識・対処法を子供の頃から身につけることは、生命に対する意義を学ぶ重要な場になるものと考え、町教育委員会に積極的に働きかけた旨返答いたしました。

また、担当者との対話の中で、今後ますます高齢化が進展する社会状況の中、現場で働く方々の意見が反映された政策の必要性を強く感じたところでもありました。

この研修を通じて感じ・得たことを、今後の教育福祉委員会活動の中で役立てたいと考えています。

建設農政委員会

建設農政委員会では、去る1月20日、千葉県野田市の六丁四反水路2号調整池、埼玉県春日部市の首都圏外郭放水路について視察研修を実施してまいりました。

野田市では、関宿地域の道路冠水や浸水被害解消に向けた事業として、六丁四反水路の改修計画が始まり、暫定調整池までのバイパス管設置などの沿川流域の浸水対策を行いながら千葉県下水道事業計画と整備手法について検討し、総事業費21億円をかけ水路改修工事を完了しました。また平成23年度には合併特例債を使用し、総事業費17億円で流量抑制を目的とし

た全体貯留量6,000m³の六丁四反調整池2箇所を計画し、現在進めている状況とのことでした。

埼玉県東部地域の浸水被害の軽減を目的に建設された首都圏外郭放水路は、中川などからの洪水を江戸川に放流するために建設された「地下の川」であり、国内最大級のガスタービンを動力源に、最大で1秒間に200m³の排水が可能となっております。調圧水槽は地下トンネルから流れてきた水の勢いを弱め、江戸川へスムーズに水を流すため地下22mの位置に建設された、長さ177m、幅78m、高さ18mに及ぶ巨大水槽であり、通常時は空洞状態のため一般公開されることから、視察をしてまいりました。

水害対策問題につきましては、全国的に共通する行政の問題であることから、当町の災害対策の参考にしたいと思えます。

境町議会圏央道境古河インターチェンジ周辺開発調査特別委員会

境町議会圏央道境古河インターチェンジ周辺開発調査特別委員会では、周辺開発にかかる現状と、昨年7月以降の経緯及び概要、更に今後の進め方について町より報告を受けました。

経過としては、現地調査を行ったことや、茨城県や関係機関との協議を進めているなか、茨城県開発公社に協力を要請し開発手法や指導・助言を受けたとのことでした。

次に地権者説明会については、昨年9月に地区1（猿山・蛇池地区）の基本構想策定の一環として、地権者を対象に説明会を開催すると共に、開発に対する意向確認を行ない地区1の基本構想が完成したとのことでした。また、地区2（長井戸・蛇池地区）については、地区1と同様に基本構想の策定業務委託契約を締結し現在作業中のことであり、その一環として地区2以外及び町外の地権者説明会を開催したとのことでした。以上が、昨年7月以降から現在までの経緯として報告を受けました。

続きまして、今回の開発を推進するにあたり「町の現状と課題」という背景があります。現在境町の課題としては、大きく分けて人口の減少と厳しい財政状況の2つが上げられております。境古河インター周辺区域は、平成25年に策定した「第5次境町総合計画」の土地利用計画の中で、「インターチェンジ周辺」という立地特性を生かして、新たな産業拠点の創出するべき区域」として位置付けられることからインターチェンジの開発によって交通量も増え、地域に

賑わいをもたらす可能性が大にあることから、境町としては町の発展のために圏央道の開通を積極的に利用できればと考えているとのことでした。

第2回定例会のお知らせ

平成27年第2回境町議会定例会は6月8日（月）から6月12日（金）までの会期で開催される予定です。

月 日	議 事
6月8日(月)	本会議（開会、提出議案上程、説明）
6月9日(火)	本会議（一般質問）
6月10日(水)	本会議（一般質問、総括質疑、議案等の委員会付託）
6月11日(木)	常任委員会
6月12日(金)	本会議（委員長の報告、委員長報告に対する質疑、討論、採決）

◎ 広報編集委員会

委員長	濱野 健司
副委員長	櫻井 実
委員	飯田 進
委員	青木 輝明